

“ヒラメキ”からはじまる  
企業ストーリー

10

『未常識の発見——今もレコード針生産を続ける株式会社ナガオカ』

文 牛久保洋次

text by Yoji Ushikubo

【未常識】今は常識ではない、でも未来に常識となる事：これは私が作った造語です。

私が一昔前にレンタルビジネスを創業した際の最初の商品はレコードが主でした。1980年代以降のCD普及により、商品構成はガラリと変わり、大きな転換期を迎える事になりましたが、現在ではレコードやCDを介さずに、ネット上から音楽配信が可能になり、人々の音楽との触れ合い方にも、大きな変化がみられます。

今回はレコード針を生産し続けて70年。ダイヤモンドレコード針の世界シェア80%以上をもつ、株式会社ナガオカをご紹介します。

歌手の桑田佳祐さんが6月にリリースしたシングル「ヨシ子さん」で、若者の音楽文化についていけない「おじさん世代」の声を代弁する歌詞の一節に、レコード針を指す「ナガオカ針」が登場します。

ピーク時には月間120万本に達したレコード針の生産量は、音楽を楽しむ媒体がCDやインターネット配信に移っていくにつれ、右肩下がりで落ち込んでいきました。同業他社が廃業していく中、同社も事業撤退を検討しましたが、「レコード文化を

絶やしてはいけません。一人でもレコードを聴く人がいる限り」と事業継続を決め、他事業で赤字を補い、生産を続けてきました。

定額の音楽配信サービスが本格化した2010年代に入ってから、レコードを再評価するアーティストや消費者が増え始め、針の需要も増加。オールドファンのみならず、若者にもレコードが受け入れられ、現在は月間20万本超にまで生産量も回復し、海外での需要も高まっています。

便利なスマホやタブレットが誕生したお陰で、移動中でも数クリックで好きな音楽を聴く事ができるようになりましたが、時間を掛けてレコード屋で購入したレコードを、家でジャケットから取り出し、付属の冊子を読みながら、針を落として音楽をゆっくりと聞き、アーティストの世界観に浸る。手間暇をかけて得られる贅沢な時間にこそ、幸せを感じる時もあるものです。

今月の一言

“モノ”を得る事の豊かさではなく、  
“心の豊かさ”の追求

これが則ち【未常識の発見】



Profile

慶應義塾大学商学部 卒業  
株式会社友アンド愛（レコードレンタルビジネスの開発者）を創業し、代表取締役就任。約700店舗をFC展開する。株式会社ビザカリフォルニアを創業し、代表取締役就任。約400店舗をFC展開する。日本CDビデオレンタル商業組合 初代理事長（社）ニュービジネス協議会 理事等を歴任。  
現在、株式会社いかしい隊 会長、その他顧問数社。